

ロシア・ウクライナ戦争の文明論と日本

京都大学名誉教授 佐伯啓思

- *機能不全にある冷戦後のグローバリズム
- *文化が文明によって抑圧される時代
- *見失われている多元的グローバリズム
- *ヨーロッパの文化的前提はユダヤ・キリスト教
- *哲学者ヘーゲルの視点について
- *アメリカ型自由を謳歌する日本
- *民族宗教としてのロシア正教
- *ロシア皇帝は神の代理人という思想
- *底流にあるロシア・メシアニズムとは
- *日本の現状をどう考えるか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は京都大学名誉教授の佐伯先生においでいただきました。1949年のお生まれで、東京大学で経済学博士号を取得された後、滋賀大学を経て京都大学で教鞭をとられました。今日のお話もそうですが、経済学のお話ではございませんで、文明論に近いところをお話したいでございます。ロシア・ウクライナ戦争の文明論ということですが、日本についてもいろいろお話をいただけたと思います。

本日は、先生が20年に東洋経済から出版されました『近代の虚妄 現代文明論序説』を売っておりますので、お持ち帰りになってゆっくりお読みいただければと思います。

佐伯 啓思
先生それではよろしくお願いいたします。

機能不全にある冷戦後のグローバリズム

佐伯 皆さんこんにちは。（拍手）

今日は「ロシア・ウクライナ戦争の文明論と日本」というタイトルになっております。ロシア・ウクライナ戦争に関しては、ここ一年、ほとんど毎日のようにテレビでも報道されてきましたし、専門家の方がありとあらゆることを論じ尽くされたと思います。しかし、まだ全然収束はしません。一般的な議論の仕方は、プーチンが何を考えたのか、とんでもないことを仕出かした。国際法違反、人道にもとる、というものです。そこで、ウクライナを全面的に支援しようという話になっております。

その話をもう少し理念的構図で言うと、西側